

平成 30 年度 第 3 回 学校協議会まとめ

大阪府立泉北高等支援学校

- 【1】 実施日時 平成 31 年 1 月 18 日（金）午後 3 時 30 分～午後 5 時 00 分
- 【2】 実施場所 本校応接室
- 【3】 出席委員 田村 仁彦氏（元堺市立上神谷支援学校 校長） 協議会会長
八田 忠敏氏（元社会福祉法人コスモス理事長） 会長代理
松林 利典氏（堺市障害者就業・生活支援センター センター長）
黒田 葉子氏（大阪府立泉北高等支援学校 PTA 会長）
島村 俊樹氏（堺市立上神谷支援学校校長）
- 【4】 欠席委員 井上 直子氏（堺市子ども相談所長）
- 【5】 内 容
 - ① 開会(教頭)
 - 配布資料を確認
 - 本日の協議会の成立を確認
 - ② 校長挨拶
 - ③ 会長挨拶
 - ④ 協議
 - (1) 「平成 30 年度学校経営計画」自己評価について
校長より中期目標 3 点の中から重点目標の自己評価を中心に説明
 - 1 コース制の更なる充実
 - (1) 教育課程の改善
教育課程と評価についての検証について進めることができた。次年度も継続して取り組んでいく。次年度 4 月から目標を明確化し、評価を実施する。
 - (2) 校内外での実習等の多様化と充実を図り、生徒のチャレンジ意欲を向上する。
個別の教育支援計画・個別の指導計画そのものがキャリアプランニングのためのツールである。今後も継続して取り組む。
 - (3) 個別の教育支援計画、個別の指導計画の活用と充実を図る。
重点をおいた項目である。目標設定の時期を前倒しにし、通知表の中でステップを積み上げるように次年度より実施する。
 - 2 支援教育の充実
 - (1) 思春期における課題への支援、健康教育の充実を図る。
6 回の校内研修会を実施した。必要な生徒には保護者と内容を相談しな

がら実施を継続していく必要がある。

- (2) 部活動、生徒（生活）指導等の充実を図り自己肯定感を育成する。
他校との練習試合等にも取組み、全体的な取組みとして成立している。
- (3) センターの機能の発揮及び地域連携の更なる充実を図る。
堺市の小中学校の支援学級との連携を深めるために、堺市教育委員会と連携した取組みを検討していく。
- (4) ICTを活用して支援教育力の充実を図る。
ホームルームでの活用を更に進めるために、Wifi 環境を整備していく。
校務での有効活用については、「記憶」ではなく「記録」で継承していくことを推進する。

3 安全で安心な学校づくり

- (2) 災害時等における生徒の安全確保の取組を強化するとともに、災害時、福祉避難所としての機能を発揮できるよう準備する。
学校ホームページに緊急連絡ブログを開設し、緊急時の学校の判断を迅速に伝えることができた。生徒の安否確認方法についての方法を具体的に検討しているところである。

- 意見
- ・校内実習について、保護者としては取り組めていない生徒もいたことを認識している。学校の見立てと違う部分を感じた。
 - ・2の(3)について、堺市教育委員会と、連携していただけるのはありがたい。教材の交換や合同研修などをしていただく機会があればよい。
⇒課題はあるが、今後も連携をしていく。
 - ・通知表についてどのように変わっていくのか、現場の教師がどのように実行していくのか、現場の意見をすいあげることにつながるとよい。
⇒方向性を示すのは校長であるが、考えて実行していくのは教師であると、常々伝えているところである。目標に対する評価になっているのか、生徒と保護者と一緒につくりあげていく通知表にしていく。
 - ・通知表は生徒のためだけでなく、保護者が見るためでもある。
 - ・変化について、教員の中でこれでよいのかと、疑問点を持ちながらやらないといけない、保護者も意見を言っていくとよいのではないかと。
⇒並べてみて成長していく通知表になるとよいと感じている。
 - ・通知表には生徒・保護者をはげますことができるというような意見もあるのではないかと。所見欄を活用した学校もある。
 - ・通知表の次年度の実際の運用状況を教えていただきたい。長期的な観

点でとらえる必要がある。

⇒必ずしもステップアップするのみではない。ずっと同じ課題があるというのもひとつではないか。スモールステップを積んでいく。今後はシラバスを3コースで展開していく。教科という形で授業をみいていく。この数年で求められるものが増えていく。変換点にきている。

- ・今後の泉北高等支援学校の向上につながるとよい。
- ・事業所で大切にしていることとして、目標に向かってがんばっているプロセスを評価していくことがあげられる。プロセスを言葉で表しにくいところである。インクルーシブ教育と言葉だけが先に進んでいるように思う。様々な障がいに対して、きめ細かな支援が必要である。全国的には一般高校の教室を使った分校や分教室を作っていくと聞いている。先進的ではあるが、先生方が高い教育力と専門性を発揮するということも大切である。通知表の評価にいたるまで、教員がどのように工夫してがんばろうとしているか、どれだけの広がりを持ったか、たての評価だけでないように期待したい。
- ・行事などを含めて、はげましていくことが大切である。生きた目標になるように、説明を行っていく、感じ方は違うかもしれないが、話し合いながら必要ではないか。

(2) 平成30年度学校教育自己診断について

- ・昨年度と同じ内容で12月に実施予定した。昨年度より、回答率が上昇した。
 - ・生徒へのアンケートはどのように実施しているのか。
- ⇒生徒へのアンケートの方法についてはひらがな、漢字表記のものがある。○をつける方法での実施である。
- ・アンケートの結果をどのように生かすのかが大切。課題につなげていくこと。とったものをどう分析して生かしていくか、その説明があると良い。

⑤ 保護者からの意見書、校長Dメールについて

無しの旨を教頭から報告

⑥ 会長まとめ

泉北高等支援学校の校長先生の発信がよくわかる協議であった。今後も課題はあるが、知恵を出し合って解決していきたい。

⑦ 校長より謝辞

⑧ 事務連絡

次年度の日程について